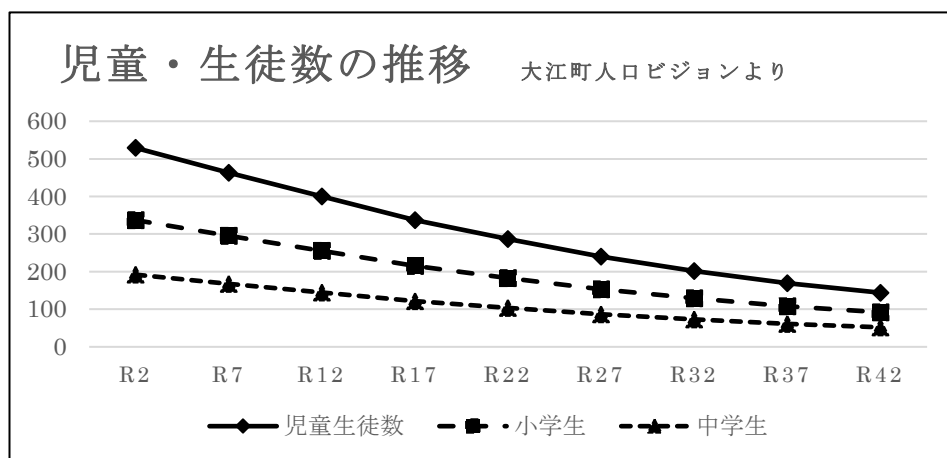


大江町学校のあり方に関する町民アンケート調査（ご協力をお願い）

大江町の今後の学校のあり方検討委員会

全国的な少子化が進む中であって、本町も例外ではありません。下図の通り、今後、さらに児童生徒数は減少していくことが見込まれます。あわせて、学校施設の老朽化も進んでいくという状況にあります。大江町教育委員会では、将来にわたって質の高い学校教育を維持するため「大江町の今後の学校のあり方検討委員会」を設置し、



児童生徒数は減少していくことが見込まれます。あわせて、学校施設の老朽化も進んでいくという状況にあります。大江町教育委員会では、将来にわたって質の高い学校教育を維持するため「大江町の今後の学校のあり方検討委員会」を設置し、

魅力ある学校のあり方について検討しています。

このアンケート調査は、その検討委員会における議論の資料として、町民の皆様のお考えを広く伺うものです。学校で学ぶ子どもたちへの教育的視点を最優先に考えてお答えください。

【アンケート実施内容】

1 アンケートの対象者

☆現在、小中学校にお子さんが通われている保護者の方だけでなく、広く町内在住の方を対象としています。

2 配付および回収方法（①または②のいずれかでご回答ください。）

①右のQRコードか下記URLによりWEBにてご回答ください。

※上記（2）の幼稚園・保育園・こども園、小中学校に通われている兄弟姉妹がいる場合には、上のお子さんが通う学校等でお答えください。

回答用URL：

②配付されました用紙に記入いただき大江町中央公民館に設置しております回収箱にご提出ください。

アンケートの回答締め切り：令和6年1月31日（水）

【記入上の注意】

- 1 回答者の氏名を記入していただく必要はありません。
- 2 ご不明な点がございましたら、教育委員会教育文化課学校教育係（☎62-2270）までご連絡ください。

問 1 回答されている方ご自身についてお尋ねします。性別、年代、お住まいの地区等の、それぞれに該当する番号に○をつけてください。

性別	
1	男性
2	女性

年代	
1	20歳未満
1	20～29歳
2	30～39歳
3	40～49歳
4	50～59歳
5	60～69歳
6	70歳以上

お住まいの地区	
1	左沢地区
2	本郷地区
3	七軒地区
4	三郷地区

問 2 現在、ご家族に保育園・学校に通学しているお子さんがいる場合、校種とお子さんとの関係をお答えください。該当する番号に○をつけてください。

ご家族のお子さんが通われている学校	
1	幼稚園・保育園・こども園
2	左沢小学校
3	本郷東小学校
4	大江中学校
5	高等学校
6	通っていない

1	父母
2	祖父母
3	兄・姉

問 3 子どもにとって、学校とはどのようなところであるべきと考えますか。優先度が高いと考えるものの番号3つに○をつけてください。

1	基礎的な知識や技能、思考力等を身につけるところ
2	主体的に考えたり、行動したりする力を育むところ
2	豊かな個性を伸ばすところ
3	友人関係を豊かにするところ
4	社会性や規範意識を身につけるところ
5	先生や友だち、先輩や後輩関係の中で、多様な人間関係を学ぶところ
6	集団生活や各種行事を通して心身を鍛えるところ

問 4-1 学級あたりの児童生徒数が減少していることについて、何らかの影響や課題があると思いますか。現在と将来（おおむね 10 年後を想定して予想してください）それぞれについて、番号をそれぞれ 1 つ選び、○をつけてください。

◎現在について

1	影響は少なく、課題はない。
2	影響があり、対応すべき課題が出てきている。
3	深刻な影響があり、すぐに課題を解決する必要がある。

問 4-2 ◎将来について（冒頭の推移図を参考におおむね 10 年後を想定して予想してください）

1	影響は少なく、課題は生じない。
2	影響があり、対応すべき課題が生じてくる。
3	深刻な影響が生じて、課題解決が必要になる。

問 5-1 お子さんが通っている（通う予定の、過去に通っていた）学校の将来について、あなたの考えに最も近い番号を 1 つ選び、○をつけてください。

1	現在のままでよい。
2	小学校を 1 つに統合し、中学校 1 校との一貫教育がよい。
3	義務教育学校がよい。
4	特に考えていない。

「義務教育学校」とは、2 つの小学校と 1 つの中学校を 1 つの学校にした新しいシステムの学校です。

※次ページ資料をご参照ください。

問 5-で 1、2、3 を選ばれた方は、理由やご意見をご記入ください。

--

問 6 大江町の今後の学校のあり方について、ご提案やご意見がありましたら自由に記入してください。

--

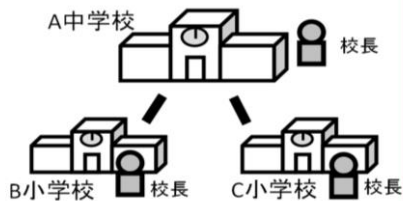
アンケートは以上になります。ご協力ありがとうございました。

小中一貫教育の学校形態について

小中一貫教育

小中連携教育のうち、小・中学校段階の教員が目指す子供像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育

小中一貫型小学校・中学校
小学校と中学校それぞれが別の学校



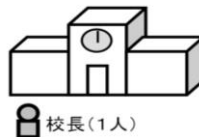
※一貫教育にふさわしい運営体制の整備が要件

例・総合調整を担う校長を定める
・学校運営協議会の合同設置
・校長等を併任

義務教育学校
小学校と中学校が1つになった学校

・新たな学校種(一つの学校)
⇒一人の校長、
一つの教職員組織

修業年限:9年
(前期課程6年+後期課程3年)



学校の適正規模

【学校教育法施行規則
第41条】

小学校の学級数は、
12学級以上18が級以下を標準とする。ただし
地域の実態その他により
特別の事情のあるときは、
この限りでない。

①小中一貫型小学校・中学校

それぞれの学校に校長がいる組織上別々の小学校（6年）・中学校（3年）が、一貫した教育を行う学校

小学校と中学校が目指す子ども像を共有し、9年間を通じたカリキュラムを編成して系統的な教育を目指します。

【特徴】

- ・9年間を見越した教育内容での、柔軟なカリキュラムの編制ができる。
- ・中学校への進学に不安を感じる児童の減少が見込める。
- ・中1ギャップの緩和や解消が見込める。
- ・9年間同じ学校でほぼ同じメンバーで過ごすため、人間関係が固定化しやすく合わなかった場合に環境を変えにくい。

②義務教育学校

新たな学校の仕組みで、小学校と中学校を1つの学校とした9年間の学校

義務教育学校のカリキュラムは、以下のとおりです。

- ・前期課程：1～6年生（小学校の内容に沿った教育）
- ・後期課程：7～9年生（中学校の内容に沿った教育）

【特徴】

- ・授業において小中学校教員が相互に行き来することができる。
- ・長期的なスパンでの教育内容や指導体制での、柔軟なカリキュラムの編制ができる。
- ・幅広い年齢層におけるコミュニケーション力の向上が図れる。
- ・中学校への進学に不安を感じる児童の減少が見込める。
- ・9年間同じ学校でほぼ同じメンバーで過ごすため、人間関係が固定化しやすく合わなかった場合に環境を変えにくい。
- ・義務教育学校では、小1～中3までの児童生徒がいるので、最上級生が低学年児童に及ぼす影響に配慮が必要となる。